

369. 多元環, Ideal, 最小公倍数, 最大
公約數, VI

中山 正 (阪大)

1. 訂正. 前稿 $\nabla = \sigma \circ \sigma_1$, umkehrbar
ナ両側 Ideal = ツイテ述ベタ定理ハ誤リデシタ、申訳ア
リマセン。

2. Eichler, 論文 = ツイテ 最近來タ *Crelle*
(194, Heft 3) = Martin Eichler が *Quater-*
nion, 整数論 = ツイテ) 論文ヲ書イテ居リ、ソノ §7 が
Durchschnitte von Maximalordnungen

トナツテ居リマス。以上ノ結果ト大シタ関係ハナク、目的
モ異ナルモノデスガ、一寸氣ヅクマコヲ書イテ見マス。

同論文ノ *Satz 14* ノ主張、一方ハ III ノ最後ノ定理
ノ特別ノ場合デアリマス (*Eichler* ノ方法ハ *Quaternion*
ノトキダケデ一寸ニ拡張スル、ハ困難カト思ヒマス)、
マタ逆ノ方ハ *Quaternion* ノトキニカキツテ成立ツノ
ヲ、マハリ III ノ補助定理 3, 4 カラ直チニ出マス。

Satz 15 モマハリ補助定理 3, 4 カラ出テ、且ツ
Quaternion ノトキニ限ル。但シ一般ノ場合モ我々ノ
 $\rho_1, \rho_2, \dots, \rho_r$ ヲ使フナラ $\sigma_0 \cap \sigma_i$ ノ含ム *Maximal-*
ordnung ノ数ハ容易ニ計算カレル。

マタ同所 154 頁下ヨリ 13 行目ノ主張モ *Chevalley-*
Hasse-Korinek-Noether ノ定理ト補助定理 4 カ
ラ容易ニ出ル。シカモ此ノ方法ニヨレバ *Quaternion*
ニカキラズ *Grad* ガ素数 l ノ場合ニ拡張出来ル、但シソ
ノ場合ニハニツ、 I_{n+1}, I_{n+2} ト云フカハリニ l 個、 $I_{n+1},$
 \dots, I_{n+l} トスルノデアアル。一般ノ次数ノ場合ニモイフ
ツトツタラヨイカ計算カレル筈デスガ興味モナイコトニ思ハ
レマス。

尚 *Satz 13* ハ一般ノ場合ニハ一寸ワカラヌ所、*Satz*
8 等ガ関係シキルノデ我々ノ結果カラハ何モ云ヘマセン。